

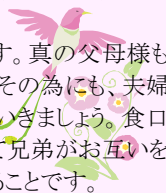
「お父様、愛しています」



お父様が聖和されてから100日が過ぎました。その間、お母様は40日間お父様を考えながら、限りない精誠を尽くされました。これは私たちが相続すべき姿勢であると思っています。お母様は朝起きて本郷苑に行かれて挨拶をされ、その後に訓読をされます。また地上にお父様がおられる時は、食事にも楽しんですることも出来ませんでしたので、霊界に行かれたお父様のことを考えながら食事だけでも楽しんでほしいということで、食事時間を決めてお母様が精誠を込めて三食を差し上げて、一緒にお父様と食事をする時間を持たれています。これを見ても夫婦の在るべき姿、霊界に行かれてからもこのようにする姿を見せて下さったのであります。夜も本郷苑に行かれて挨拶をされて、一日を終える生活をされています。また、どこに行かれてもお父様と共に同行する生活もされています。40日が過ぎてからアメリカに行かれた時に、お父様が行かれた一つ一つの思い出の場所を訪ねながら、それを確認する7日間5600kmの歩みをされたのであります。お母様がお父様を愛している歩みでありますし、お父様が地上におられる時の全ての摂理の種を、お母様自ら責任を持って定着させる為に身悶えをされています。その定着の一番関心を持って始められたのが、教会の内的な刷新です。統一教会の復興のために、お母様は“神霊と真理で生まれ変わる教会にならないといけない”と言うことで、愛に溢れる教会になる為に、お母様自らが見本となられて生活をされているのであります。

私たちはお父様を愛していますと言っていますが、どのように愛しているのでしょうか。それを実体で表すためにどのような努力をしているのでしょうか。本当に愛している夫婦であれば、10年・20年と一緒に暮らしていくと顔や心が似ていき、生活のスタイル、食事も似てきます。私たちが本当にお父様を愛しているとすれば、私たちの姿の中でお父様に似ていかないといけません。お父様は、み旨の為であれば絶対に諦めず、どんなことでも成し遂げる方でありました。また物をとても大事にされます。これを通してもお父様に似ることは身近なところから相続することを考えていただければと思います。そして、お父様には人種・宗教の壁がありません。どのような方でも丸ごと愛していかれます。皆様が考えているお父様、その中で皆様が相続したいものが何であるかを一緒に考えていき、遠いお父様ではなく、自分が一つでも似ていきたいお父様の姿を考えることが出来れば良いと思います。

親は自分の息子が証しになることを願います。真の父母様も統一の食口が証しになることを願っています。その為にも、夫婦が本当に愛していますとお父様の前に見せていきましょう。食口同士がお互いに愛していきましょう。夫婦そして兄弟がお互いに大事にしていきましょう。それがお父様を愛することです。



本教会の礼拝に初めて参加された方を心から歓迎いたします  
神様と真の御父母様の祝福が共にありますよう。お祈り致します

1、お誕生日を迎えた食口の皆様、おめでとうございます。

2、天一国基元節までの全世界祝福家庭200日特別精誠による祈祷会が行われています。

期間:8月10日～基元節まで(2013年2月21日) 21:00～

場所:京都教会 訓読(天聖經)

3、基元節勝利のための伝道3日路程が行われました。

12月18日(火)～20日(木)

1位:京都、2位:北都、3位:北山

4、クリスマス祝福フェスティバルが行われました。

日時:12月23日(日) 14:00～(13:30開場)

場所:ウェスティン都ホテル 京都

5、第9地区新春出発式

日時:1月5日(土) 13:30～

場所:大阪教会

6、しあわせ講演会

毎週金曜日 14:00～ 場所:Sun Academy 京都

7、教区全体特別精誠祈祷会

毎週金曜日 21:00～22:30

多くの食口がご参加下さるよう、お願い致します。

8、神様摂理史の責任分担解放圏完成宣布教育

日程:1/4(金)午後4時～1/8(火)正午

1/18(金)午後4時～1/22(火)正午

9、清平修練会

1/5(土)～1/7(月)、1/11(金)～1/13(日)

清平役事18周年記念清平特別大役事

2013/1/18(金)～1/21(月)

全国食口連合礼拝(真のお母様主催)

4400億絶対善霊と天使たちの総動員役事

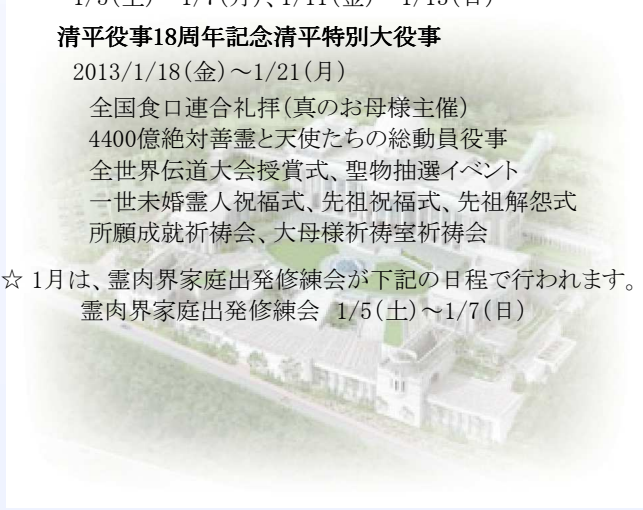
全世界伝道大会授賞式、聖物抽選イベント

一世未婚霊人祝福式、先祖祝福式、先祖解怨式

所願成就祈祷会、大母様祈祷室祈祷会

☆1月は、霊肉界家庭出発修練会が下記の日程で行われます。

霊肉界家庭出発修練会 1/5(土)～1/7(日)



【年頭標語】

天地人真の父母勝利解放完成時代

天地人真の父母勝利解放完成時代



京都教会

Holy Spirit Association For Unification  
of World Christianity Kyoto Church  
世界基督教統一神霊協会

教区長:李炯燮 牧師

教会長:佐々木 大作 牧師

京都市右京区西院西高田町6

Tel: 075-313-0539 / Fax: 075-325-2712

E-mail: son\_e2013@angel.ocn.ne.jp

京都HP: http://www.uckyoto.org/

# 式次第



執礼者：李炯燮教区長  
司会者：佐々木大作

開 会	.....	司会者
黙 禱	.....	全 体
※開会讃頌	..... 聖歌 3 番 .....	全 体
※敬 拝	.....	全 体
※家庭盟誓	.....	全 体
代表祈禱	.....	
讃 頌	.....	聖歌隊
み言訓誦	.....	全 体
説 教	真のお父様の復活の役事	
※讃 頌	..... 聖歌 20 番 .....	全 体
※祝 禱	.....	教区長
※全体祈禱	.....	全 体
教会音信	.....	司会者
閉 会	.....	司会者

～お願い～ ※印のある項目は、全員起立して進行いたします

『 生めよ、殖えよ、地に満ちよ 』

# 今週のみ言

さあ、イエス様が納められていた場所をごらん下さい。そして、急いで行って、弟子たちにこう伝えなさい、『イエスは死人の中からよみがえられた。見よ、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。そこでお会いできるであろう』。あなたがたに、これだけ言うておく。そこで女たちは恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った。すると、イエスは彼らに出会って、「平安あれ」と言われたので、彼らは近寄りイエスのみ足をいだいて拝した。そのとき、イエスは彼らに言われた、「恐れることはない。行って兄弟たちに、ガリラヤに行け、そこでわたしに会えるであろう、と告げなさい」。

女たちが行っている間に、番人のうちのある人々が都に帰って、いっさいの出来事を祭司長たちに話した。祭司長たちは長老たちと集まって協議をこらし、兵卒たちにたくさんの金を与えて言った、『弟子たちが夜中に来て、われわれの寝ている間に彼を盗んだ』と言え。万一このことが総督の耳にはいっても、われわれが総督に説いて、あなたがたに迷惑が掛からないようにしましょう。そこで、彼らは金を受け取って、教えられたとおりにした。そしてこの話は、今日に至るまでユダヤ人の間にひろまっている。

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行って、イエスが彼らに行くように命じられた山に登った。そして、イエスに会って拝した。しかし、疑う者もいた。イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。



(マタイによる福音書第28章6節～20節)

# 統一運動

## 梶栗玄太郎・日本統一教会会長の聖和式を挙行

天暦11月16日(陽暦12月28日)午前8時半から本部教会の礼拝堂において、梶栗玄太郎・日本統一教会会長の聖和式が行われました。藤原秀敏総務局長の司会で始まった式典は、主礼の宋ヨンソプ・全国祝福家庭庭連合会総会長によるローソク点火、全体で聖歌を讃美した後、古田元男・国際宣教協会共同会長の代表報告祈禱、梶栗会長の略歴が紹介されました。

このたび、梶栗会長には、韓鶴子総裁と文亨進世界会長からそれぞれ『忠臣奉天』、『天永武士』という揮毫が与えられています。

来賓紹介では、文國進・韓国統一教維持財団理事長をはじめ韓国・統一教の責任者らや文信淑様家庭が紹介されました。

特別メッセージで文國進理事長は、教会の改革を推進し、教会員の人権と尊厳性のために闘った梶栗会長に対して、「私たちは梶栗会長を永遠に英雄として記憶するでしょう」と称賛しました。

梶栗会長ご夫妻に特別功労牌が授与された後、主礼から聖和の辞が述べられ、宋総会長は涙を流しながら、日本を共産主義などから守った梶栗会長の業績を称えました。次に小山田秀生分捧王は、涙ながらに梶栗会長との思い出を語りながら、「(梶栗会長は)物事の本質を的確に捉える洞察力を持っていた」「頼りがいのある兄さんの中の兄さんです」と述べました。

続いて、多数の電報が披露され、全体で献花。聖歌を讃美し、主礼の宋総会長が祝禱しました。

最後に家族を代表して長男の梶栗正義氏が挨拶し、梶栗会長を支えた全てのかたに感謝を伝えながら、病と闘う中を夫婦二人でみ旨に邁進してきた両親に対し、「そんな両親が(私たちの)家族の『メシヤ』であったと証言致します」と、参列者らに深い感動を与え、締めくくりました。

聖和式の閉会后、親族や参列者らは梶栗会長との別れを惜しみ、柩に花を入れるなどした後、「原殿式」のため群馬県片品村の尾瀬霊園に向かう梶栗会長のご遺体を見送りました。

